

「大学評価担当者集会 2016」に係る実施報告

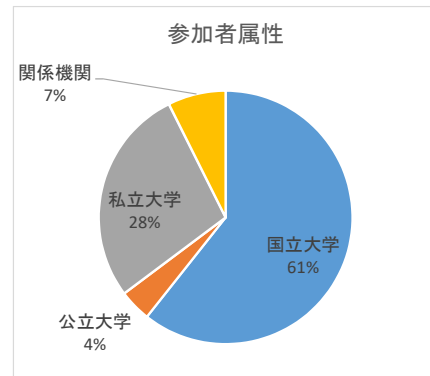
平成 28 年 8 月 25 日（木）から 26 日（金）の 2 日間にわたって、大学評価コンソーシアム主催による「大学評価担当者集会 2016」を立命館大学大阪いばらきキャンパスにおいて開催しました。

【会場】

A 棟南ウイング 2 階・3 階

【参加者数】

122 名（参加登録者数：125 名）



国公立大学の教職員、及び企業を含む大学関係機関から総勢 122 名にご参加いただき、大学評価及び Institutional Research (IR) に係る内容を中心に、以下の講義や演習、討論等を実施しました。

8月25日（木） 10:00~20:00

◇プレイベント「評価担当者や IR 担当者に求められる調査設計の基礎と基本～立命館大学における学生の学びの実態調査の実践を通じて：担当者の疑問に答えます～」
（10:00~12:00）

参加者数：42 名（講師 2 名、スタッフ 7 名を含む）

講師：鳥居朋子先生（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

川那部隆司先生（立命館大学 教育開発推進機構 准教授）

進行：浅野茂（山形大学 学術研究院（企画部） 教授）

評価担当者については評価書に記載するエビデンスや根拠資料の収集、IR 担当者については学内の課題を浮き彫りにするための各種データの収集と分析が求められています。こうした要求に応えていくためのヒントを、講師である鳥居先生と川那部先生にご教示いただくため、これまで両先生が学生調査などの調査設計や分析を通じて蓄積されてきた「活きたノウハウ」について調査・研究成果と絡めながら解説いただきました。



参加者には事前学習教材（論文2編）を読んでもらいました。それを前提にややコンパクトな講義を受けていただき、全員に質問・感想票を記入してもらいました。講師のお二人には、時間内に全ての質問に回答していただきました。

◇全体会「数値目標と指標で組織の活動をどのように測るのか？」(13:30~17:25)

参加者数：122名（スタッフ14名を含む）

まず、大学評価担当者集会2016の開催にあたり、小湊卓夫（大学評価コンソーシアム代表幹事）から挨拶があり、浅野茂（大学評価コンソーシアム副代表幹事）から本集会の趣旨、プログラム等について説明を行いました。

その後行われた全体会では、目標・計画の運用支援に際し、組織のパフォーマンスの測定及びモニタリングを行うための数値目標や指標の設定について、どのようにすれば組織の活動をモニタリングできる指標を設定でき、それらを次年度以降の計画に具体的に落とし込むことができるのかを考えていきました。

具体的には、まず、「評価からロジックモデル（指標）へ」と題して、全体会でとり上げる課題と内容について全体像を概説しました。次に、数値目標、指標の設計と運用に関する佐賀大学、明治大学の事例と、国立大学の第3期中期目標・計画における指標の分析結果の報告がありました。

そのうえで、ロジックモデルを用いて模擬の計画を「投入ー活動ーアウトプットー短期アウトカムー長期アウトカム」の各プロセスに分解し、それをもとに指標を考える演習を行いつつ、大学の諸活動の改善と大学評価、IRとの関係を考えていきました。架空の大学の計画とデータをもとにロジックモデルの作成を試み、個人ワークや近隣の方と話をしながら作業を進め、参加者間の意見交換・情報共有を行いました。

最後に、事例報告、講義、演習を振り返り、全体のまとめを行いました。



◇大学評価コンソーシアム総会（17:35~17:50） 参加者数：76名

まず過去1年間の活動、監査人からの監査報告について代表幹事及び副代表幹事から報告を行いました。次に幹事の選任、今後1年間の活動予定等について会員のみなさまにお諮りし、ご了承いただきました。また、過去5年分の活動を点検評価し、会員からのニーズ調査なども行いつつ、平成29事業年度から開始する第二期行動計画（5カ年）の検討を行うこととし、会員に協力を呼びかけました。

なお、平成 28 年 8 月 27 日以降の大学評価コンソーシアム運営担当会員は次のとおりです。

- ◎小湊 卓夫 九州大学 基幹教育院・准教授
- 浅野 茂 山形大学 学術研究院（企画部）・教授
- 嶋田 敏行 茨城大学 全学教育機構（IE オフィス）・准教授
- 大野 賢一 鳥取大学 大学評価室（学長室 IR セクション 学長特別補佐（IR 担当））・准教授
- 小林 裕美 大学共同利用機構法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 管理部研究協力課・課長
- 佐藤 仁 福岡大学 人文学部・准教授
- 末次 剛健志 佐賀大学 総務部企画評価課・係長（IR 主担当）
- 関 隆宏 新潟大学 経営戦略本部評価センター [IR 推進室兼務]・准教授
- 土橋 慶章 神戸大学 企画評価室・准教授
- 藤井 都百 名古屋大学 評価企画室・講師
- 藤原 将人 立命館大学 教学部 学事課・課長補佐
- 山本 幸一 明治大学 教学企画部 評価情報事務室・副参事
- ◆浅野 昭人 立命館大学 学生部・次長
- ◆大川 一毅 岩手大学 評価室・教授

*1 ◎代表幹事、○副代表幹事 ◆監査人

*2 幹事の任期は、平成 30 年度の大学評価担当者集会の日まで。

◇懇親会（18：00～20：00） 参加者数：77 名（スタッフ 14 名を含む）

それぞれの業務に係る情報交換、全体会での講義・演習や 2 日目の分科会の話題など、終始和やかな雰囲気の中で会話が盛り上がり、また、会場の随所で名刺交換が行われ、新たなネットワーク作りの場としても機能しました。参加者のみなさまからは、各大学がお造りになっていたり、大学が立地する地域ご自慢のお酒や飲み物のご提供もいただき、好評を博しました。

8月26日（金） 9：30～16：00

◇評価・IR の実践・課題共有セッション 参加者数：87 名（スタッフ 12 名を含む）

担当：大野賢一（鳥取大学）、浅野昭人（立命館大学）、浅野茂（山形大学）、小林裕美（国際日本文化研究センター）、小湊卓夫（九州大学）、佐藤仁（福岡大学）、嶋田敏行（茨城大学）、末次剛健志（佐賀大学）、藤井都百（名古屋大学）、藤原宏司（山形大学）、藤原将人（立命館大学）、山本幸一（明治大学）

大学評価あるいは IR 業務に一定程度携わっている方を対象に、大学の諸活動の改善を促進するための評価・IR 業務のあり方についての討論を行いました。

具体的には、類似の関心や課題をもつ担当者から成る 13 の班に分かれて、評価業務・IR 業務自体を、どのように効率的・効果的に行うか、また、それらの現状把握をどのようにすれば意思決定や改善の支援につなげられるのか、という観点で討論しま

した。その際、単に課題と解決策の事例を共有する、というだけでなく、課題に共通する背景や対応策も話し合いの中で探りました。そして、課題の原因や解決策をまとめたポスターセッションを行い、情報を共有するとともに、参加者の投票により特に優れた班を4つ選び、それらの検討内容を発表していただき、議論を深めました。



◇評価初心者セッション 参加者数：32名（スタッフ2名を含む）

担当：関隆宏（新潟大学）、土橋慶章（神戸大学）

大学評価の実務経験がほとんど無い初心者を対象に、「評価とは何か」という基本的な観点の習得を目標に、評価報告書の事例を用いて、参加者が担当している業務の意味や意義を理解するための講義及び演習を行いました。

具体的には、まず、導入レクチャーとして、講師から大学評価や評価の観点、評価書作成のチェックポイント等の解説があり、次に、「認証評価」をテーマにして、講師の概要の説明を受け、参加者は架空の事例について評価報告書の問題点を探る個人演習と、班に分かれた意見交換及び発表を行いました。その後、国立大学法人評価等の「目標（計画）に基づく評価」をテーマにして、各班で事例の問題点・課題を抽出、改善点・解決策を検討し、結果をまとめたポスターセッションを行い、成果を共有しました。



以上
（文責：藤原（立命館大学））